

平成 30 年度 姉妹校等留学プログラム

横浜市立南高等学校カナダ国際交流プログラム

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

市立南高等学校/海外研修（2人）

(2) 渡航先

国/都市：カナダ/バンクーバー

外国の高校：Point Grey Secondary School

(3) 期間

平成 31 年 2 月 8 日～平成 31 年 2 月 14 日（7日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

姉妹校にあたる Point Grey Secondary School との相互訪問・交流を通して生徒同士、教員間の絆を深める。異文化環境に身を置くことで、広い視点で考える意識を醸成するきっかけを作る。また、国を超えたグローバルな問題に気づくことで、将来国際社会で活躍しようという意識を高める。

(5) 活動内容

「積極的に自国文化発信や外国文化の理解を目指し、帰国後は国際交流のリーダーとして活躍していくための素養を養う。」という目的を持ち、バンクーバーにあるポイントグレイ校との姉妹校交流とホームステイを大きな活動の柱とするプログラムである。

1 日目 バンクーバーに到着後、ホストファミリー宅へ

2 日目 ホストファミリーと過ごす

3 日目 ポイントグレイ校生とともに市内研修

4 日目 ポイントグレイ校にて授業体験

5 日目 ホストファミリーと過ごす

※積雪による休校のため授業体験中止

6 日目 UBC 構内見学後、日本へ出発

(6)実績・成果

○派遣高校生 RT さん

私は本校の「カナダ国際交流プログラム」に参加し、2月8日から5泊7日カナダのバンクーバーに研修旅行をした。本校は現地の Point Grey Secondary School と姉妹校協定を結んでおり、その一環として毎年互いに学生を派遣している。現地では Point Grey の学生の家にホームステイをしながらバディと過ごすことになっており、私は同い年のバディの家にホームステイをした。

バディの家族は大の日本好きなので、初日は日本の文化や歴史についてたくさん話すことができた。また、家や部屋は日本よりはるかに大きく、冷蔵庫やお菓子も好きに開けて食べてよいと言われるなど、ホストファミリーは日本からの留学生である私を厚遇してくれたように思う。

このように日本に関心が高くこちらの事もとても気にかけてくれるホストファミリーと過ごす中で私は最も気を付けたのは「現地の学生に近づく」ということだ。今回の研修の中で私が目標にしていたのは、金銭感覚や食生活などホームステイをしないと得られないローカルな経験をする事であり、そのためには留学生であるという意識から離れ、現地の学生と同じ感覚で生活する必要があると考えたのだ。バディとは1日目の夜に数人で映画を見に行ったりスーパーで買い物をし、ホストマザーとは食事の時に日本とカナダの日常の習慣の違いを話したり2日目の朝に大通りのコーヒーショップに行き現地の朝の風景や人気の店を見るなど、日本とは違う日常を知ることができた。また、交通量の多い道・少ない道によって青信号の点滅・点灯が分けられること、旧正月など中国人が多い時期は観光名所までもが中国ムード一色になることなど、私にとって2回目のカナダだからこそ気づき、ホストファミリーに教えてもらったことも多かった。

4日目には Point Grey で体験授業があり、私はバディと共に英語や演劇の授業に参加した。どの授業も生徒の発言が基礎として成り立っていて、授業の形がこうだから積極的に発言する生徒が育つという、周囲の人やその人の性格でなく「制度や形式が人を育てる」ということがよく理解できた。特に演劇の授業は、前半は先生主体で自己紹介などをして自分から発言する環境が作られ、後半はチームに分かれて劇の練習や脚本作りなど自分のやりたいことが出来る授業であり、教えつつ自主性を育む授業に感動した。また、休み時間はバディ以外の学生とも食事しつつ、食の違いから休み時間の遊びまで幅広く雑談をした。この研修で私はまさに現地の学生の様な生活ができ、グローバルな関わりになれ、国際化の止まらぬ世界に身を置く上での大きな一歩を踏み出せたことは間違いないだろう。

○派遣高校生 ME さん

私は5泊7日のカナダ国際交流プログラムへ参加した。私は、人が生まれてから一生かかわる「お金」という存在に興味を持っているため経済学を学びたいと思っている。今回の研修は日本以外の国のお金について学ぶよい機会になった。プログラム参加にあたり、私はデビットカードをつくった。日本では、カードを所持しているのに利用していない人が多く、まだキャッシュレスが広まっていない。それに対して世界のキャッシュレス決済比率は、中国で55%、アメリカで41%と日本よりはるかに高い。では、カナダではどうだろうと思いつつ現地に向かった。

まず、カナダではキャッシュレス化が進んでおり、それを実際に経験することができた。私のバディは買い物をするときに、クレジットカードやアプリを利用して支払いをしていた。同年代の子がキャッシュレス決済をしている光景は、日本人の私にとって新鮮だった。さらにホストファミリーも全員キャッシュレス決済をしていたり、店員の方もどのようなカードに対しても焦ることなく慣れた手つきでレジ操作をしていたりした。これらのことから、私はカナダのキャッシュレス化を実感することができた。

しかし、買い物中にあることが起こった。私のカードが機械不良により使用できなかった店舗があったのだ。所持していた金額では払えず慌てていると、バディが現金で支払ってくれた。現金を返すため、後日 ATM でデビットカードを利用してお金をおろすことができた。これらの経験から、私は次のことを思った。カナダではキャッシュレス化が進んでいたが、機械不良などで利用できなくなったときは不便であり、現金払いの利点を痛感した。日本のように災害の多い国では、電気が利用できなくなったときには現金での支払いが確実であると考えた。

次に、カナダではクレジットカード以外にもポピュラーなカードがある。ホストファミリーと過ごす日に、私はバディとバンクーバー市とリッチモンド市のショッピングセンターへ行った。その時の移動手段は電車とバスだった。Compass Card という、IC カードを使用して運賃の支払いをすることができた。基本的な使い方は同じであったが、日本と違う点もあった。日本の IC カードはチャージした金額はコンビニエンスストアなどの店で支払い時に利用することができることだ。小規模ではあるが様々な場面で使えるカードは使いやすいためもっと普及してもいいのに、と私はバスを乗りながら考えていた。

今回のプログラムに参加して私の狭い世界観を変えるとともに、お金や経済への新たな興味がわいてきた。